



## 『恕(じょ)』

4月6日の始業式、そして7日には新入生を迎えて、1年生155人、2年生161人、3年生156人の計472人で令和5年度がはじまりました。昨年度に引き続き「信頼・温もり・笑顔」をキーワードに、「大人になる練習をし、夢をかなえる土台を築く生徒の育成」を目指して学校づくりに取り組んでまいります。

保護者・地域の皆さまのご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

『恕(じょ)』・・・お世話になった校長先生にお目にかかったときに教えていただいた言葉です。担任していたときに、生徒たちに伝えていた言葉だとおっしゃっていました。私は『恕(じょ)』という言葉を知りませんでしたので、帰りの電車の中で調べました。「『論語(ろんご)』衛霊公(えいれいこう)」にある孔子(こうし)の言葉です。その意味を知ったとき、自分はこのような行動ができているのかと改めて考えさせられました。

子(し)貢(こう)問(と)ひて曰(いわ)く、「一言(いちげん)にして以(もつ)て終身(しゅうしん)之(これ)を行(おこな)ふ可(べ)き者(もの)有(あ)りや。」

子(し)曰(いわ)く、「其(そ)れ恕(じょ)か。己(おのれ)の欲(ほつ)せざる所(ところ)は、人(ひと)に施(ほ)どこすこと勿(なか)れ。」

(訳) 子貢(しこう)という人物が尋ねました。「ひとことで、人生で行い続けていくものとは一体何なのでしょう。」すると、先生(孔子)がおっしゃいました。「それは人の心を自分の心の如く思いやる『恕(じょ)』である。それは、自分がされて嫌なことは人にしてはいけないということだ。」と。

「自分がされて嫌なことは人にしてはいけない」・・・当たり前のように誰もがわかっているはずですが、それができていないのが現状なのではないでしょうか。相手の悪口を言う、機嫌が悪いときに八つ当たりをする、約束を守らない、自分勝手な行動をする・・・そう考えていくと、「自分がされて嫌なこと」を、すべてほかの人にしない人が世の中にどれだけいるのでしょうか。孔子の言う『恕』の精神を実践するということは、とても難しいことかもしれません。しかし、難しいからといってできないわけではありません。「相手の嫌がることをしない人」はたくさんいます。

では、『恕』の精神を実践していくために必要なことは何でしょうか。それは、「相手の気持ちを受けとめる心=思いやりの心」を育てることだと思います。思いやりの心を育てる一つの方法は、人と人との温かいふれあいではないでしょうか。温かいふれあいの中で思いやりの心が育ち、『恕』の精神が少しずつ実践できるのだと思います。

ニュースや新聞の報道を見ていると、痛ましい事件を見ると心が痛みます。そして、自然災害も後を絶ちません。しかし、日本人はそんな自然災害をも幾度となく乗り越えてきました。外国人から称賛される日本人の姿はまさに『恕』なのかもしれません。また、世界一となった WBC での大谷選手、ダルビッシュ投手、メイトバー選手ら侍ジャパンのチームとしての姿、あれもまた『恕』なのだと思います。

この1年間、様々な取組の中で一人ひとりの『恕=思いやりの心』を育て、自分の良さが生きる、他の人の良さも生きる「信頼・温もり・笑顔」

